

No.2558

名色（山菜採り）・蘇武岳

日 時 : 4月29日(祝日)30日(日) 晴れ

参 加 : 嶋原(L)、尾崎、佐々木、高石、大西(記)

本日は山菜採り、明日は蘇武岳登山です。目的地の天気は、午後から雨予報。晴れて欲しいと願いながら、尾崎さんの車で、8時過ぎに新大阪を出て嶋原宅まで行き、テント泊用品を積み込んでから、皆で出発しました。道路渋滞もなく順調に進み、一度道の駅で休憩を挟んでから、途中のスーパーマーケットで、買い出しを済ませました。その頃、空模様が怪しくなっていたのですが、お店の中でいる間に一雨降ったので助かりました。名色にはお昼頃到着。お昼ご飯をゆっくりと食べる事もなく、それぞれが食べ物を口にほうばりながら、山菜採りの支度をしていました。

何となく原始人ぼくて、今から狩に行行って獲物を仕留める勢いで…(一人で笑った)。いよいよ山菜採り開始です。佐々木、高石、私と三人はスキー場跡を蕨やごみ探し、尾崎さんと嶋原さんは、あっという間に私達の視界から消えました。タラの芽やこしあぶらを沢山採ってきてくれると期待しながら、私は、ぼちぼちと蕨、コゴミ採りを楽しみました。蛇、トカゲ、かえるもいましたよ！

4時頃には、駐車場にみんな戻り、採れたての山菜を新聞紙に包みまとめてから、早々に車に乗り込みテント泊をする場所まで移動する。テント場に着いたら、先ずは今日の収穫に、ビールで乾杯！少し落ち着いてから、テントを張り、テント泊の準備も整ったので、外で宴会を始める。

コゴミ、コシアブラは、見るのも食べるのも始めてでしたが、なかなかいい味わいで、特にタラの芽は、スーパー等に売られてものとは、見た目から違い、本当に美味しかったです。天ぷらを食べてから、テントの中でお鍋を囲んで夕飯。寝る前に外に出ると周りは真っ暗闇ですが、星が綺麗でした。明日に備えて早目に就寝。

(30日) 蘇武岳へ…。

テント泊は、少々背中が痛くなりますが、よく眠れてスッキリと起きれました。

天気も良くて爽やかな朝です。みんなと一緒に、朝食をとり、身支度をしてからテント場を出発。

車で林道を、標高800m辺りまで行き、車から降りて登山開始。(7:40)800mも来たから、楽勝と思いきや、歩く歩く。蘇武岳は、兵庫県美方郡香美町と豊岡市との境界にそびえる一等三角点の山で、標高1074.

4m、兵庫50山の一つです。冒険家の植村直己さんが愛した山で、日高町には植村直己記念館がありました。広い林道を30分程進むと、真新しい看板が設置されており、登山道の地図と蘇武岳山頂まで2.3kmの記載。焼き板に示された<蘇武岳、大杉山>

<万場下山道> <名色下山道>の標識があり、山頂を目指し歩く。(8:30)このころには、雪が所々残っており、細く伸びた木は根元辺りから曲がって成長していました。

(9:10) 落ち葉の上に積もっていた雪が解け始めて



(蘇武岳を)



(蘇武岳山頂)

いて滑りやすくなっており、転ばないように注意して歩く。そろそろ山頂が見えてきて先頭の方達は、着いた模様です。先頭が歩いた足跡を、ゆっくり踏みしめながら登り、(9:20) 蘇武岳山頂に到着。

山頂からは、四方見渡せて、日本海側も、遠く向こうの白山(氷ノ山と扇山)も霞はかかっていたけれど、ほんのり見え、気持ちの良い風にあたりながら、30分程休憩。

(10:00) 山頂を後にする。(11:40) 駐車場着。時間が速かったので、車に乗り込むと、山菜採りの出来る場所迄移動して、山菜採り開始です。高石さんと私は、車の中やその周辺で、のんびりと過ごしました。男性陣も一時頃には戻り、持ち帰り用にとタラの芽やコシアブラ、大きな蕨を頂きました。

帰りも一度休憩を挟み、鳴原宅に立ち寄り、新大阪駅(4:30)無事に溶着しました。

尾崎さん…。車の手配と、往復の運転有難うございました。

山菜採り、テント泊、蘇武岳登山楽しかったです。皆さん、お世話になりました。



(途中でのイワカガミ)